

一般社団法人新潟県臨床検査技師会
平成28年度通常総会議案書

期 日 平成28年 5 月22日（日） 15時50分開会
会 場 新潟ユニゾンプラザ 4階 大会議室

総会次第

1. 開 会
2. 会長挨拶
3. 来賓紹介
4. 表 彰
5. 資格審査報告
6. 議長選出
7. 議長挨拶
8. 総会役員選出
 - 1) 書記任命
 - 2) 議事録署名人任命
9. 議 事
 - 1) 第1号議案 平成27年度事業報告について
 - 2) 第2号議案 平成27年度収支決算書について
 - 3) 第3号議案 平成27年度監査報告について
 - 4) 第4号議案 平成28年度事業計画（案）について
 - 5) 第5号議案 平成28年度収支予算（案）について
 - 6) 第6号議案 支部提出議案について
 - 7) 第7号議案 日臨技定期総会提出議案について
 - 8) その他
10. 総会役員解任
11. 議長挨拶
12. 閉会の辞

平成27年度事業報告

平成27年度もこれまでの会務を遂行するとともに、28年度に新潟県で開催される日臨技北日本支部医学検査学会（第5回）のプレ学会として第90回新潟県臨床検査学会の運営を行った。本学会の一般演題数は43題であった。参加者数は会員362名、学生49名、計411名であった。

本年度も理事が一丸となって努力して参りましたが、至らぬ点が多々ありご迷惑をお掛けしたと思います。しかしながら無事に終えましたことは会員の皆様のご理解とご協力によるものと感謝いたします。

平成27年度の事業の概要を下記の通り報告する。

総務部

- ① 平成26年度から一般社団法人に移行したため、定款の確認および各種規定および手順書の見直しを行った。
- ② 表彰関係は昨年度通りの事業を行った。

学術部

- ① 第90回新潟県臨床検査学会を開催した。
- ② 精度管理事業は、新たに日臨技のシステムを使用して事業を行った。
- ③ 検査研究部門活動は活発に開催されたが、日臨技助成金の申請は16研修会の申請にとどまった。

広報部

- ① 会誌、ニュース、ホームページがそれぞれの役割を明確にして事業を行った。特にホームページは迅速な対応を行った。

1. 通常総会の開催

平成27年5月30日(土) 駅まえオフィス貸会議室7階大会議室において平成27年度第1回通常総会を開催し、平成26年度事業報告、同決算報告、監査報告の説明があり、また、平成27年度事業計画(案)、収支予算(案)が提案され、特に質疑はなく拍手で承認された。

2. 会務の執行体制

1) 職務分担

平成27年度は新役員による会務の執行にあたり、学術部、広報部、総務部の3部門に理事を配置し、各部門との連携を図りながら会務を執行した。

2) 事務局体制

技師会業務が非常に多くなっている現状で、事務局事務員の存在は要であり、事務員の努力により諸会議の準備や日臨技・北日本支部および会員との連絡・調整役を担い、又、JAMTIS運用による会員情報登録および変更作業を迅速に処理し、組織運営上、大変重要な役割を果たしている。

3. 諸会議の開催

- 1) 理事会
第1回平成27年5月30日(駅まえオフィス貸会議室)
第2回平成27年6月13日(新潟県公社総合ビル3F会議室)
第3回平成27年9月6日(新潟県公社総合ビル3F会議室)
第4回平成27年11月15日(新潟県公社総合ビル3F会議室)
第5回平成27年12月19日(新潟県公社総合ビル3F会議室)
第6回平成28年2月20日(新潟県公社総合ビル3F会議室)

2) 常任理事会

常任理事会は従来どおり隔月土曜日開催を目標に、平成27年度は5回開催した。

3) 三役会議

急を要する案件には、メール等を利用し検討・協議を行い、特に三役会議は開催しなかった。

4) 各種委員会の開催

(1) 会誌編集委員会

新臨技会誌(季刊発行)第295号から第298号の編集業務のため、4回開催した。

(2) ホームページ委員会

会員への早急な情報伝達手段としてのホームページを積極的に運用、会員から親しまれるホームページをめざした。

(3) 検査研究部門委員会議

各検査研究分野の活動計画並びに運営等を協議するため2回開催した。

(4) 生涯教育研修委員会

生涯教育委員の業務も定着していることから、理事会や各支部生涯教育委員と連絡をとりながら研修会予定および参加者の登録を行った。

(5) 精度管理委員会

精度管理調査の事業計画、集計処理状況把握、検討会企画の協議のため6回開催した。

(6) 表彰委員会

各種表彰の対象者選考のため1回開催した。

4. 組織対策

1) 入会対策

前年度同様、各支部役員および各施設連絡責任者の協力により入会を勧めてきた。

今後は会員数の多い年代が順次定年を迎えることから、会員数の減少が懸念される。

本年度の新入会および再入会の会員は85名であった。

なお、本会の正会員総数は1,313名（平成28年3月現在）である。

また、技師連盟入会者（1月～12月の年単位）は、毎年100人に満たない状況であり、臨床検査を取り巻く環境が厳しくなる中、臨床検査技師の社会的地位向上および今後の業務拡大の為に、更に多くの会員の入会をお願いしなければならない。

2) 各支部との連携強化

各支部ともその地域性を生かした独自の活動が浸透し、年々活発化している。支部総会等に役員を派遣し、連携強化を図った。

5. 地域保健医療活動および公益事業

1) 新潟県臓器移植財団へ賛助会員として参画

2) 糖尿病を知る集いへ佐渡支部が血糖測定で協力（6月14日）

3) 父の日企画「家族で守ろうパパの健康」へ中越支部が共催団体として参画（6月21日）

4) きらきらフェスタ2015新潟市母子福祉連合会に血管年齢測定で協力（6月27日）

5) 中越沖地震エコノミークラス症候群フォローアップ検診に協力（小千谷市7月18・19日）

6) すこやかともしびまつりへ中越支部が共催団体として参画（9月19・20日）

7) 糖尿病を知るつどいへ中越支部が共催団体として参画（10月3日）

8) ピンクリボンホリデー2015へ新潟県臨床検査技師会として参画（10月18日）

9) 第18回新潟市健康福祉まつりへ新潟支部が共催団体として参画（10月18日）

10) 中越地震エコノミークラス症候群フォローアップ検診に協力（小千谷市10月31日、11月1日）

11) 世界糖尿病デーin長岡2015へ中越支部として参画（11月14日）

12) 糖尿病を知る集いへ佐渡支部が血糖測定で協力（11月15日）

13) 中越地震エコノミークラス症候群フォローアップ検診に協力（十日町市11月22日）

14) 新潟市民を対象にした検査と健康展を開催（11月28日）

6. 求人情報

日臨技への情報登録とともに、会員へは新臨技ニュースやホームページ等で求人情報を提供した。

7. 災害関係

災害時の支援活動や会員の安否確認に威力を発揮できるものと確信している災害支援ネットワークの登録者は67名（平成28年3月現在）の微増であり、多くの会員の賛同と登録をお願いしたい。

8. 表彰関係（敬称略）

1) 第33回篠川至賞（篠川至賞選考委員会を経て平成27年5月30日通常総会にて表彰）

学 術 部 門 稲 波 浩（新潟支部）

学 術 部 門 高 頭 秀 吉（中越支部）

2) 平成27年度功労者表彰（平成27年5月30日通常総会にて表彰）

永年会員功労者表彰 該当者29名

特別功労者表彰 吉 原 正 弘（中越支部）

3) 平成27年度生涯教育履修表彰（平成27年5月30日通常総会にて表彰）

奨 励 賞 桑 原 喜久男（済生会三条病院） 420点

坂 西 清（厚生連新潟医療センター） 410点

近 藤 善 仁（厚生連長岡中央総合病院） 410点

長谷川 秀 浩（厚生連新潟医療センター） 370点

新 人 賞 渡 邊 愛 深（長岡赤十字病院） 310点

平成27年度活動報告

第90回新潟県臨床検査学会、検査研究部門活動、精度管理事業、生涯教育を大きな柱として1年間活動を行った。

1. 学会

平成27年10月12日に朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにおいて、第90回新潟県臨床検査学会を開催した。学会テーマは、「進化」～新しい臨床検査技師像を探る～として、一般演題43題が寄せられた。今回より設けた学生発表のセクションには、新潟大学、新潟医療福祉大学、北里大学保健衛生学院の学生から合計5演題が寄せられ、参加者数は会員362名、学生49名、計411名であった。ランチョンセミナーは5社から協力を頂き、それぞれの分野で関心の高い話題を提供していただいた。今回、平成28年度日臨技北日本支部学会のプレ学会の意味合いを持ち、運営にあたっては幾つかの改善点を見いだせた。また、多くの会員から一般演題を頂戴して感謝申し上げる。県学会での一般演題は普段の業務の中から研究活動を行った事を発表する場として、また、若手技師の学会発表の手順、プレゼン方法を学ぶ場として活用いただければと考え、会員各位に於かれては平成28年度以降も多くの演題を頂けるようお願いしたい。

2. 検査研究部門

池亀 央嗣

平成27年度は、検査研究部門の組織再編が行われた最初の年度であった。昨年度までは、6部門、13分野の構成で運営されてきたが、平成27年度から9部門3分野（生物化学分析部門、臨床一般部門、臨床血液部門、臨床微生物部門、輸血細胞治療部門、病理細胞部門、染色体・遺伝子部門、臨床生理部門、臨床検査総合部門）の9部門であり、臨床生理部門は、神経生理分野、循環生理・呼吸生理分野、超音波分野の3分野から成る）に再編された。このうち、生物化学分析部門は、旧臨床化学分野と旧免疫血清分野が、病理細胞部門は、旧病理分野と旧細胞分野が、臨床検査総合部門は、旧疫学・公衆衛生分野と旧管理運営分野がそれぞれ統合された。旧生体機能分野は、神経生理分野と循環生理・呼吸生理分野に分割された。その他の部門は、概ね旧分野からそのままの移行となった。部門構成人員も各部門6名、分野は4名となった。また、活動費もこれまでの各分野8万円から、各部門12万円・各分野8万円に変更された。

検査研究部門が開催した研修会は、合計19回開催され、(昨年度22回)、参加人数は会員930名(昨年度689名)、非会員102名(昨年度95名)、学生1名で合計1,033名(昨年度791名)であった。前年度の研修会は22回であり、研修会数としては昨年度を下回ったが、全ての部門・分野で開催することができた。昨年度の参加者は、791名であり、今年度は1,033名であった。参加者数としては、前年度比で242名の増加となった。

特に臨床生理部門では、2日間に渡る研修会や実技研修を積極的に開催し、5回開催された研修会で参加人数は424名と非常に多くの参加を得た。

臨床一般部門、臨床血液部門、輸血細胞治療部門、染色体・遺伝子部門も実技実習を積極的に取り入れ、研修レベルを初心者・中堅者別など、細部まで行き届いた形式を設けた。他団体や他学会との共催も多く、他職種と合同での研修会も開催された。

実習形式の導入や他団体との合同企画、積極的なアイデアなどがあり、昨年度に開催した第63回医学検査学会やスキルアップ研修会の経験を生かした研修会を企画することができた。平成28年度は、第5回日臨技北日本支部医学検査学会が新潟で開催される。各部門が総力しての学会の成功と多くの会員の積極的な参加を期待したい。

平成27年度 検査研究部門の研修会

部門	開催日	生涯教育点数	参加人数		研修会内容
			会員	非会員	
生物化学分析	平成27年 11月24日(土)	専門 20	29	11	【生物試料分析科学会甲信越支部新潟分科会第12回研修会、 新潟県臨床検査技師会生物化学分析部門合同研修会】 1. 腫瘍マーカー異常高値の考え方 ～腫瘍マーカー検査、特に糖鎖抗原 CA19-9 は様々な原因で異常高値となります。異常高 値の考え方をお話ししましょう～ シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社 CAI 事業部 萩原 貴裕 先生 2. 腫瘍マーカー検査室の悩み事 新潟県立がんセンター検査部 安達 洋子 先生 3. オーダーメイド医療に関わる遺伝子関連検査 ～がん関連遺伝子検査～ (株) エスアールエル検査技術企画部技術開発部検査開発課 中條 聖子 先生 4. 糖鎖技術が導く新たな臨床検査 シスメックス株式会社 IC-PE 商品開発グループ 松崎 英樹 先生 会場：新潟大学医歯学総合病院
	平成28年 2月13日(土)	専門 20	43	10	【第46回日本臨床化学会甲信越支部新潟分科会 新潟県臨床検査技師会生物化学分析部門合同研修会】 1. 血液疾患データの読み方 新潟県立がんセンター検査部 市川 和美 先生 2. 症例検討 新潟県立がんセンター内科・内科部長 石黒 卓朗 先生 会場：新潟大学医歯学総合病院
臨床一般	平成27年 6月28日(日)	専門 20	49	6	【平成27年度 第1回新臨床臨床一般部門研修会】 1. 平成26年度新臨床精度管理調査フォトサーベイ結果と解説 済生会新潟第二病院 小野 篤史 技師 2. 尿中 L-FABP について 積水メディカル株式会社検査事業部営業部カスタマーサポートセンター 学術グループ 須長 宏行 先生 3. もう一度学ぼう！尿沈渣！ ①尿中赤血球形態を再確認！ ②大食細胞と卵円形脂肪体を学ぶ！ 東京大学医学部附属病院 宿谷 賢一 先生 会場：新潟大学医歯学総合病院
	平成27年 11月3日(火)	専門 20	17	2	【平成27年度 第2回新臨床臨床一般部門研修会実技研修会】 1. 尿沈渣検査における血球類の鑑別ポイント(講義) 済生会新潟第二病院 小野 篤史 技師 2. 尿沈渣検査における上皮細胞類の鑑別ポイント(講義) 新潟大学医歯学総合病院 齋藤 温 技師 3. 尿沈渣検査における円柱類の鑑別ポイント(講義) 済生会新潟第二病院 西江 良介 技師 4. 鏡検実習(基礎的成分を中心に) 会場：新潟医療技術専門学校
臨床血液	平成27年 9月5日(土)	専門 20	25	1	【第1回臨床血液部門 実技研修会】 血液像観察のポイント説明と鏡検実習 (初心者を対象に幼弱細胞の見方などを指導する。) 会場：新潟医療技術専門学校
	平成27年 10月10日(土)	専門 20	26	2	【第2回臨床血液部門 実技研修会】 第1回と同様の内容 会場：新潟医療技術専門学校
	平成28年 1月16日(土)	専門 20	59	4	【臨床血液部門研修会】 1. 『凝固検査結果に影響する様々な要因について - 検体の取り扱いの重要性 -』 積水メディカル(株) 検査事業部営業部 カスタマーサポートセンター学術グループ 市原 文雄 先生 2. 『基礎から見直そう血液形態検査 - 標本上からみえるものを増やすために -』 NTT 東日本関東病院臨床検査部 後藤 文彦 先生 会場：新潟大学医学部
臨床微生物	平成27年 12月5日(土)	専門 20	63	3	【平成27年度 臨床微生物部門研修会】 『学ぼう！呼吸器感染症～検査から感染症診療まで～』 1. 教育講演 「呼吸器感染症～喀痰検査～」 燕労災病院中央検査部主任 樋口 元弥 先生 2. 特別講演 「肺炎診療のABC」 新潟県立中央病院内科部長 太田 求磨 先生 会場：新潟大学医歯学総合病院

輸血細胞治療	平成27年 7月26日 (日)	専門20	25	0	【平成27年度 輸血細胞治療部門輸血検査実技講習会】 Aコース<基礎コース> Bコース<認定および技能維持コース> 講演：認定受験について 県立がんセンター新潟病院 小林 健太 技師 会場：新潟大学医学部総合病院
	平成28年 2月13日 (土)	専門20	58	4	【輸血細胞治療部門研修会】 1. 研修会参加報告「緊急時の輸血および大量輸血療法に関する講習会」 報告者：魚沼基幹病院 柴田真由美 新潟労災病院 山崎 健 県立新発田病院 高橋 一哲 2. 認定受験取得記 新潟県立新発田病院 菅原 陽子 技師 3. 「直接抗グロブリン試験陽性の意義と対応」 バイオ・ラッドラボラトリーズ株式会社 カスタマーサポート部 柿沼 幸利 先生 会場：新潟大学医学部総合病院
病理細胞	平成27年 7月4日 (土)	専門20	30	5 (1)	【第37回病理技術研究会（病理細胞部門研修会と共催）】 認定病理検査技師の認定試験を受験して 信楽園病院 土田 尚子 技師 北日本支部病理部門研修会（福島）の報告 新潟大学脳研究所 丹田智恵子 技師 3. HE染色について 1) HE染色アンケート集計結果報告 新潟大学医学部標本センター 大谷内健二 技師 2) ヘマトキシリンの検討（各施設のヘマトキシリンの作成・染色性） 済生会新潟第二病院 遠藤 浩之 技師 3) エオジン検討（エオジンの粉末の違いによる染色性） 新潟大学医学部標本センター 大谷内健二 技師 4) トラブルシューティングと染色サーベイ 新潟医療センター 長谷川秀浩 技師 5) 病理医の組織診断の過程とHE染色 新潟大学医学部保健学科教授 岩淵 三哉 先生 6) 鏡検 & フリーディスカッション 会場：新潟大学医学部保健学科 *新潟支部 新潟病理技術研究会と共催
	平成27年 10月31日 (土)	専門20	53	7	【病理細胞部門研究会】 1. 教育講演 「病理/細胞診日常業務と遺伝子検査 - 検査しない技師も知っておいた方がいいこと -」 長岡赤十字病院病理診断部部长 薄田 浩幸 先生 2. 技術講演 「病理組織検体、細胞診検体からの遺伝子検査」 愛知県がんセンター中央病院臨床検査部 遺伝子病理検査科 主任専門員 柴田 典子 先生 会場：新潟医療人育成センター 共催：新潟県細胞検査士会、新臨技新潟支部
染色体・遺伝子	平成27年 9月12日-13日	専門30	25	3	【平成27年度日臨技北日本支部遺伝子部門研修会】 (共催新潟県臨床検査技師会遺伝子部門研修会) 9月12日 (土) 講演会 1. 技術講演 - 1 座長新潟県立がんセンター新潟病院 神田 真志 氏 「LNA技術を用いた高感度microRNA検出法とその解析法について」 タカラバイオ (株) 井上 晃一 先生 2. 教育講演 座長 新潟市民病院 清野 俊秀 氏 「体液診断による革新的がんの診療と治療」 国立がん研究センター研究所分子細胞治療研究分野 落谷 孝広 先生 3. 技術講演 - 2 座長 新潟大学医学部総合病院 佐藤 未来 氏 「MajorBCR-ABLmRNA測定キット「オーツカ」の 臨床的意義と測定技術について」 大塚製薬 (株) 山本 剛士 先生、古賀 大輔 先生 9月13日 (日) 実技講習 座長長岡赤十字病院 高頭 秀吉 氏 「定量リアルタイムPCR法：絶対定量と相対定量について」 タカラバイオ (株) 西脇 一恵 先生 会場：新潟大学医学部 *北日本支部遺伝子部門と共催

臨床生理	平成27年 6月28日(日)	専門 20	88	3	<p>【生理検査基礎セミナー】 第1部 BasicLifeSupport:BLS 実技指導 胸骨圧迫、人工呼吸、AED 操作の実技指導を受けられます。 講師：新潟市消防本部</p> <p>第2部 講演1 「心電図判読に役立つ基礎知識」 新潟大学医学部保健学科 齋藤 修 先生 講演2 「呼吸機能検査の基礎（楽しく検査するためのポイント）」 新潟大学医歯学総合病院 加藤 靖彦 先生 講演3 「生化学データを読み解くための初級編」 新潟大学地域医療教育センター魚沼幹病院 坂西 清 先生 会場：新潟医療人育成センター</p>
	平成27年 8月29日(土) -30日(日)	専門30	120	9	<p>【超音波検査セミナー2015】 「臨床医は超音波検査に何を求めているか～それは撮り忘れないで～」 [1] 第1会場：心臓・血管 8月29日(土) 1. 「超音波の基礎 ～超音波の特性を学ぶ～」 GEヘルスケア・ジャパン 山本 幸弘 先生 2. Live・Demo 計測精度向上の取り組み～伝授：群馬県立心臓血管センターの極意～ 群馬県立心臓血管センター 戸出 浩之 先生、岡庭 裕貴 先生 3. 「急性心不全」 済生会三条病院 桑原喜久男 先生 4. 「右心機能評価、肺高血圧評価」 群馬県立心臓血管センター 戸出 浩之 先生 5. 「超音波を用いた大血管の評価方法」 東邦大学医療センター大森病院 八畝 恒芳 先生 8月30日(日) 6. 「下肢静脈瘤の検査方法」 東邦大学医療センター大森病院 八畝 恒芳 先生 7. 「心筋症」 群馬県立心臓血管センター 岡庭 裕貴 先生 8. 「症例検討、Q & A」 コメンテーター：講師</p> <p>[2] 第2会場：腹部・体表 8月29日(土) 1. 超音波実技セミナー 腹部、心臓、頸動脈 各コース 10名 新潟県臨床検査技師会臨床生理部門員 2. 「小児エコーのポイント」 国立病院機構埼玉病院 岩下 淨明 先生 3. 「症例から学ぶ消化管エコー大人と小人」 国立病院機構東京医療センター 武山 茂 先生 4. 「症例から学ぶ超音波検査」 群馬県立小児医療センター 竹内 浩司 先生 8月30日(日) 5. 「甲状腺エコー」 国立病院機構東京医療センター 武山 茂 先生 6. 「肝・胆・膵腫瘍の分類～カテゴリーを考慮した～」 群馬県立小児医療センター 竹内浩司 先生 7. 症例検討、Q & A」 コメンテーター：講師</p> <p>会場：燕三条地場産業振興センターリサーチ</p>
	平成27年 11月15日(日)	専門20	18	8	<p>【平成27年度 超音波検査士対策セミナー】 「超音波検査士対策：超音波検査に必要な物理学的基礎知識」 東芝メディカルシステムズ営業本部超音波営業部 営業技術担当 浜田 聡明 先生 会場：新潟大学医歯学総合病院</p>
	平成27年 12月26日(土)	専門20	57	0	<p>【神経生理検査セミナー2015】 1. 講演「聴性感覚誘発電位」「体性感覚誘発電位」 市川市リハビリテーション病院 高橋 修 先生 2. ライブデモ「体性感覚誘発電位：SEPのデモンストレーション」 市川市リハビリテーション病院 高橋 修 先生 会場：新潟大学医歯学総合病院</p>
	平成28年 2月28日(日)	専門20	107	14	<p>【平成27年度新潟支部生理研究班・新潟県臨床生理部門共催研修会】 1. 講演①「心電図所見に対する心エコー検査の評価ポイント」 新潟大学医歯学総合病院検査部 小林 絃子 技師 2. 講演②「心電図検査の医・路・波・検査の進め方から精度管理まで」 帝京大学医学部附属病院中央検査部 富原 健 技師 3. 講演③「心電図を観る・波形の成り立ち・自動診断のビットホール」 新潟大学医学部保健学科 教授 池主 雅臣 先生 会場：新潟大学医学部</p>
臨床検査総合	平成27年 12月12日(土)	専門20	38	10	<p>【平成27年度臨床検査総合部門（公衆衛生）研修会】 1. 「サルモネラ標準試験法と各種培地について」 日本製薬株式会社診断薬マーケティング営業部 CRMチーム 庭野清司 先生 2. 「侵襲性肺炎球菌感染症について ～血清型別法と血清型分布調査の意義について～」 国立感染症研究所細菌第一部 主任研究官 常彬 先生 会場：コープシティ花園「ガレソン」</p>

今年度も新潟県臨床検査技師会として第36回平成27年度新潟県臨床検査精度管理調査会を行った。この事業は新潟県から新潟県医師会への委託事業である。技師会としても積極的に当事業に協力し、集計、解析を含めた実務の中心的役割を果たすと共に、臨床検査の精度向上に努めた。

本事業を担当する精度管理委員会は全体会議と臨床化学担当の分科会を含め計6回開催し、実施計画及び配準準備、データ集計、解析を実施した。

今年度も感染症実施項目は微生物検査に技師会が担当する一般菌の1菌種について感受性を実施し、新潟県保健環境科学研究所が担当する2菌種の同定を合わせて実施した。臨床化学は昨年同様27項目で実施した。調査試料は今年度低濃度域に自家製人プール血清を用い、高濃度域には昨年同様市販管理試料を用いた。評価基準は昨年と同様に目標値からのBIASの許容限界とし、日本臨床化学会クオリティマネジメント専門委員会が設定した「生理的変動に基づいた臨床化学検査36項目における測定許容限界」を一部変更して用いた。本年度も試料11にヒトプール血清を使用しており、そのためクレアチニンにおいて低濃度となったため暫定的に評価基準を2倍の目標値 $\pm 10\%$ とした。カルシウムも従来と比べて目標値が低濃度となったため、暫定的に $\pm 8\%$ とした。LD (LDH) はばらつきが確認されたため、暫定的に2倍の $\pm 8\%$ とした。

評価はBIASの許容限界内をA、許容限界の2倍以内をB、3倍以内をC、3倍を超える場合をDとした。なお、尿素窒素のアンモニア消去(回避)法以外の測定方法、測定方法未記入等は目標値の設定が不可能であるため評価対象外とした。

また、集計に用いた精度管理用システム(JAMTQC)は5施設以下の集団の統計処理、および目標値の設定が不可能であるため、方法別および試薬別に目標値を設定した項目で5施設以下の場合は評価を「施設別報告書」に反映させさせることが不可能となり、「対象外」の表記になることから目標値を参考に自施設の正確度の判断をお願いした。なお、ドライケミストリー法についても評価を行った。また、今年度は、HbA1cの調査に低値・高値の2濃度とも市販の管理試料を利用した。結果として報告値で反応性による測定法差、メーカー差がでてきており、測定試料と各メーカーの測定法で格差が出てきていることから、次年度は委員会にて熟慮したうえで、今後の方向性を決めていくこととした。

集計作業の迅速化、誤登録防止を目的に今年度より、日本臨床衛生検査技師会の精度管理システムを使用し、Web報告を実施し、特に問題なく報告作業は行われたが、まだ不備があることから、日臨技との連携を密にして改善できることは改善していきたい。

精度管理調査事業の内容(実施要項)は以下のとおりである。

1. 試料の到着 臨床化学は平成27年10月26日(月)に到着予定です。
2. 測定日 サンプル到着後、可能な範囲で速やかに実施してください。
3. 測定項目

1) 臨床化学 ※生化学試料：冷凍試料 ・ HbA1c 試料：冷蔵試料

ブドウ糖・中性脂肪・総コレステロール・HDLコレステロール・LDLコレステロール・ナトリウム(Na)・カリウム(K)・クロール(CL)・カルシウム・無機リン・尿素窒素・クレアチニン・尿酸・総蛋白・アルブミン・血清鉄・C反応性蛋白(CRP)・総ビリルビン・AST(GOT)・ALT(GPT)・アルカリフォスファターゼ(ALP)・ γ -GT(γ -GTP)・LD(LDH)・CK・アミラーゼ・コリンエステラーゼ(CHE)・HbA1c・Mgの28項目。

ドライケミストリー法は今年度も無機リン、総ビリルビンを実施しますが、参加は選択可能とします。また、LDLコレステロールは実施しません。

血液 ※血液試料：冷蔵試料

CBC5項目(ヘモグロビン・血小板数・白血球数・赤血球数・ヘマトクリット)

血液画像サーベイ（アンケート1～5問、参考調査設問 1～16問）

4. 測定方法

各施設で使用している試薬、機器を用いて測定してください。

測定回数は各施設にお任せ致しますが施設の代表としての測定値をご報告ください。

5. サンプル及び取り扱い

1) 臨床化学

※ドライケミストリー法は専用のサンプル（DRY I、DRY II）を測定してください。

サンプル	測定項目	取扱い上の注意
11	ブドウ糖・中性脂肪・総コレステロール・HDLコレステロール・LDLコレステロール・ナトリウム (Na)・カリウム (K)・クロール (CL)・カルシウム・無機リン・尿素窒素・クレアチニン・尿酸・総蛋白・アルブミン・血清鉄・C反応性蛋白 (CRP)・総ビリルビン・AST (GOT)・ALT (GPT)・アルカリフォスファターゼ (ALP)・ γ -GT (γ -GTP)・LD (LDH)・CK・アミラーゼ・コリンエステラーゼ (CHE)・Mg (参考調査)	ヒト血清です。サンプル到着後は-40℃以下に凍結保存してください。不可能な場合、できるだけ速やかに測定してください。測定時は流水中で融解してください。また、感染性の確認はしてありません。取り扱いには十分注意してください。
12	ブドウ糖・中性脂肪・総コレステロール・HDLコレステロール・LDLコレステロール・ナトリウム (Na)・カリウム (K)・クロール (CL)・カルシウム・無機リン・尿素窒素・クレアチニン・尿酸・総蛋白・アルブミン・血清鉄・C反応性蛋白 (CRP)・総ビリルビン・AST (GOT)・ALT (GPT)・アルカリフォスファターゼ (ALP)・ γ -GT (γ -GTP)・LD (LDH)・CK・アミラーゼ・コリンエステラーゼ (CHE)	ヒト血清由来凍結品です。サンプル到着後は-40℃以下に凍結保存してください。不可能な場合、できるだけ速やかに測定してください。測定時は流水中で融解してください。また、感染性の安全はできる範囲で確認済みですが、取り扱いには十分注意してください。
13 (DRY I) 14 (DRY II) ※ドライケミストリー法専用	ブドウ糖・中性脂肪・総コレステロール・HDLコレステロール・LDLコレステロール・ナトリウム (Na)・カリウム (K)・クロール (CL)・カルシウム・無機リン・尿素窒素・クレアチニン・尿酸・総蛋白・アルブミン・血清鉄・C反応性蛋白 (CRP)・総ビリルビン・AST (GOT)・ALT (GPT)・アルカリフォスファターゼ (ALP)・ γ -GT (γ -GTP)・LD (LDH)・CK・アミラーゼ・コリンエステラーゼ (CHE)	ヒト血清です。サンプル到着後は-40℃以下に凍結保存してください。不可能な場合、できるだけ速やかに測定してください。測定時は流水中で融解してください。また、感染性の確認はしてありません。取り扱いには十分注意してください。
17・18	HbA1c	市販コントロールです。通常の検体と同様にして各種測定法での希釈方法にて希釈していただき、希釈測定をお願いいたします。感染性の安全はできる範囲で確認済みですが、取り扱いには十分注意してください。また、サンプル到着後は冷蔵保存し、できるだけ速やかに測定してください

2) 血液

サンプル	測定項目	取扱い上の注意
41	ヘモグロビン 血小板数 白血球数 赤血球数 ヘマトクリット	市販管理血球です。サンプル到着後は冷蔵保存してください。(凍結厳禁) 感染性の完全な否定はできませんので、取り扱いには十分注意してください。 [装置の測定条件] (1) マニュアルとクローズドの測定モードがある場合、マニュアルモードで測定してください。 (2) 患者検体を測定するモードで測定してください。 (3) CBCのみ(白血球分画等なし)のモードで測定をお願いします。CBCのみできない機種はそのまま測定してください。なお、赤芽球等を白血球から除外する機能を有する機種の場合、除外前の白血球数で報告してください。 (4) ヘモグロビン測定において、シアンを用いるかいないかの方法選択ができる機種については、通常業務で用いている方法で行ってください。 [試料の準備と測定] 室温に15分間静置後、静かに転倒混和ときりもみを繰り返し行い、充分に混和してください。(激しく振ることは絶対に避けてください) よく混和された状態で、直ちに測定してください。 報告値については、「測定機種に依存する注意事項について」を参照してください。
血液画像サーベイ	(アンケート1～5、参考調査設問1～16)	各設問、アンケートの回答方法に従ってください。(選択肢番号、または、フリー入力)

6. 成績報告締切：平成27年11月2日（火）

7. 報告（臨床化学・血液）

日臨技システムでの報告となります。日本臨床衛生検査技師会のHPよりJAMT QCに入っていたいただき、参加登録、試料到着の登録を実施後、システムにて報告をお願いいたします。

8. 参加費 昨年までと同様に無料です。

9. 目標値と評価基準について

1) 臨床化学

ブドウ糖、中性脂肪、総コレステロール、HDLコレステロール、LDLコレステロール、ナトリウム (Na)、カリウム (K)、クロール (CL)、カルシウム、クレアチニン、尿素窒素、尿酸、AST (GOT)、ALT (GPT)、

アルカリフォスファターゼ (ALP)、 γ -GT (γ -GTP)、LD (LDH)、CK、アミラーゼ、コリンエステラーゼ (CHE) は次頁の表の標準物質及び測定方法で目標値を設定し、その評価基準に添って全てのサンプルについて評価を行ないます。HDL コレステロール、LDL コレステロールは測定試薬別に評価を行ないません。ドライケミストリー法は昨年同様専用の基準 (平成17年度および18年度新潟県臨床検査精度管理調査報告書参照) を用いて評価をおこないます。本年度もメーカーの協力で参考値を公表致します。評価基準は「生理的変動に基づいた臨床化学検査36項目における測定の許容誤差限界 (日本臨床化学会クオリティマネジメント専門委員会)」を基に一部修正し設定しました。反応性等に問題が確認された場合、変更する場合があります。

無機リン、総蛋白、アルブミン、血清鉄、C 反応性蛋白 (CRP)、総ビリルビン、Mg は評価せず、単純集計のみを実施します。

臨床化学目標値設定方法及び評価基準 (ドライケミストリー法以外)

項目	単位	標準物質	測定方法	評価基準
ブドウ糖	mg/dL	ReCCS (旧 HECTEF SR センター) 標準品	ヘキソキナーゼ法、電極法	目標値 \pm 3%
中性脂肪	mg/dL		酵素法 (FG 消去)	目標値 \pm 5%
総コレステロール	mg/dL		酵素法	目標値 \pm 5%
HDL コレステロール	mg/dL		各社直接法	目標値 \pm 5%
LDL コレステロール	mg/dL		各社直接法	目標値 \pm 10%
尿酸窒素	mg/dL		アンモニア消去法	目標値 \pm 5%
クレアチニン	mg/dL		酵素法	目標値 \pm 5%
尿酸	mg/dL		ウリカーゼ・POD 法	目標値 \pm 5%
ナトリウム (Na)	mEq/L		電極法	目標値 \pm 2 mEq/L
カリウム (K)	mEq/L		電極法	目標値 \pm 0.2 mEq/L
クロール (CL)	mEq/L		電極法	目標値 \pm 2 mEq/L
カルシウム	mg/dL	各種測定方法	目標値 \pm 5%	
AST (GOT)	U/L	JCCLSCRM-001	JSCC (JCCLS) 自動化法	目標値 \pm 5%
ALT (GPT)	U/L		JSCC (JCCLS) 自動化法	目標値 \pm 5%
アルカリフォスファターゼ (ALP)	U/L		JSCC (JCCLS) 自動化法	目標値 \pm 5%
γ -GTP	U/L		JSCC (JCCLS) 自動化法	目標値 \pm 5%
LDH	U/L		JSCC (JCCLS) 自動化法	目標値 \pm 4%
クレアチニンキナーゼ (CK)	U/L		JSCC (JCCLS) 自動化法	目標値 \pm 5%
アミラーゼ (AMY)	U/L		JSCC (JCCLS) 自動化法	目標値 \pm 5%
コリンエステラーゼ (CHE)	U/L	JCCLSCRM-002	JSCC (JCCLS) 自動化法	目標値 \pm 5%
HbA1c	%	メーカー指定標準物質	HPLC 法	目標値 \pm 0.2% (A1c)
マグネシウム (Mg)	mg/dL	ReCCS 標準品	各種測定方法	評価せず

臨床化学目標値設定方法及び評価基準 (ドライケミストリー法)

項目	単位	標準物質	測定方法	評価基準
ブドウ糖	mg/dL	ReCCS (旧 HECTEF SR センター) 標準品	ヘキソキナーゼ法、電極法	目標値 \pm 5%
中性脂肪	mg/dL		酵素法 (FG 消去)	目標値 \pm 9%
総コレステロール	mg/dL		酵素法	目標値 \pm 9%
HDL コレステロール	mg/dL		各社直接法	目標値 \pm 9%
尿酸窒素	mg/dL		アンモニア消去法	目標値 \pm 8%
クレアチニン	mg/dL		酵素法	目標値 \pm 8%
尿酸	mg/dL		ウリカーゼ・POD 法	目標値 \pm 8%
ナトリウム (Na)	mEq/L		電極法	目標値 \pm 3 mEq/L
カリウム (K)	mEq/L		電極法	目標値 \pm 0.3 mEq/L
クロール (CL)	mEq/L		電極法	目標値 \pm 3 mEq/L
カルシウム	mg/dL		各種測定方法	目標値 \pm 8%

AST (GOT)	U/L	JCCLSCRM-001	JSCC (JCCLS) 自動化法	目標値±13%
ALT (GPT)	U/L		JSCC (JCCLS) 自動化法	目標値±13%
アルカリフォスファターゼ (ALP)	U/L		JSCC (JCCLS) 自動化法	目標値±13%
γ-GTP	U/L		JSCC (JCCLS) 自動化法	目標値±13%
LDH	U/L		JSCC (JCCLS) 自動化法	目標値±13%
クレアチニンキナーゼ (CK)	U/L		JSCC (JCCLS) 自動化法	目標値±13%
アミラーゼ (AMY)	U/L		IFCC (JCCLS) 自動化法	目標値±13%
コリンエステラーゼ (CHE)	U/L	JCCLSCRM-002	JSCC (JCCLS) 自動化法	目標値±13%

2) 血液

ヘモグロビン・血小板数・白血球数・赤血球数について、各メーカー製キャリブレーターにより校正が行われた装置で、測定のコラボが得られた機種について、その値を目標値に設定し、機種別に評価基準に添って該当機種のサンプルについて評価を行いません。

ヘモグロビン・白血球数・赤血球数について、評価基準は臨床的許容限界 JCCLS,1994を基に設定しました。

血小板数については、試料の目標値が基準値下限付近であることから、他県の精度管理の状況を参考に設定しました。

ヘマトクリットは評価せず、単純集計のみ実施します。

血液検査 評価基準

項目	単位	目標値設定装置	評価基準
ヘモグロビン	g/dL	ICSH CLSI の推奨する国際標準法にトレーサビリティが確保された各メーカーキャリブレーターにより校正された装置	目標値±3.6%
血小板数	×10 ⁹ /L		目標値±10.0%
白血球数	×10 ⁹ /L		目標値±5.6%
赤血球数	×10 ¹² /L		目標値±4.1%

3) 一般フォトサーベイ

4. 生涯教育

近藤 善仁

各検査研究班・各支部担当者にご尽力いただき、行事登録および参加者登録を行っていただいた。日臨技より支給される「生涯教育推進研修会助成金」の交付額は、計16研修会・計677,000円を受け取ることができた。また、本年度より日臨技情報総合システム (JAMTIS) が新システムとなり、手探りで慣れていくような状態であったが、滞りなく事業を完遂することができた。関係者の皆様には重ねて御礼申し上げたい。

新臨技会誌、新臨技ニュースおよび新臨技ホームページの運営を通じて全会員にリアルタイムに情報の提供が出来るよう心がけてきた。また会員への情報発信手段として安定した運営を目指し活動を行ってきた。新臨技ニュースは、理事会議事要旨、研修会案内および求人情報など新臨技の新しい情報をいち早く会員施設へ提供できた。また昨年作成したホームページ運営規約である一般社団法人 新潟県臨床検査技師会広告掲載内規をもとに、規律ある運営に努めて来た。

また、ホームページを利用した災害時支援メーリングリストの広報などに努めてきた。

1) 新臨技会誌

齋藤 功英

〔講義・研究〕の内容は基礎的内容を主に力を入れてきた。〔研修会報告〕は参加会員の協力得て研修会をより身近に感じ情報提供や新人会員の研鑽の頁とした。〔ペンリレー〕〔新入会員紹介〕〔検査技師として～私の思い出～奮闘記〕などの掲載で、会員相互の親睦をはかり、誰でも参加できる企画にした。また〔公益活動報告〕を掲載することにより臨床検査技師の啓蒙活動と、多くの会員に参加していたけるような情報ツールとした。〔施設紹介〕では新旧問わず、検査室を紹介し施設情報の共有を図った。年4回 季刊発行(295号から298号まで)

<平成27年度会誌掲載内容>

295号 平成27年4月1日

〔講義〕 抗酸菌の細菌学的検査法について 渡辺 靖
ループスアンチコアグラントの歩み 恩田 宏夫

〔研修会参加報告〕

超音波検査士対策セミナー2015に参加して 土田加代子
輸血・移植分野 輸血研修会に参加して 藤原 誠得
輸血・移植分野DVD上映会に参加して 菅原 陽子
感染制御部門疫学・公衆衛生分野研修会に参加して 青木 順子
形態検査部門血液分野研修会に参加して 松田 将門
臨床検査セミナーに参加して 池上喜久夫
佐渡支部研修会に参加して 遠藤 恭平
神経生理検査セミナーに参加して 丸山 大節
生物化学分析部門免疫血清分野研修会に参加して 伊藤 晋
第37回新潟支部一般検査研究班合同研修会に参加して 土田 純也

〔弔辞〕 高澤氏を偲んで 小林 元康

中村氏を偲んで 山崎 正雄

〔施設紹介〕 富永草野病院 西江 聡子

〔ペンリレー〕 栗山 美香

〔検査技師として～私の奮闘記～〕 佐藤 幸輝
野村ますみ

〔会報〕

平成27年度第通常総会議案書
平成26年度第4回_理事会議事録
平成26年度第5回_理事会議事録
平成26年度第6回_理事会議事録
平成26年度第2月常任理事会議事録

平成26年度第11月常任理事会議事録

新入会員紹介

会員消息

技師会日誌

〔行事予定〕

296号 平成27年7月1日

〔あいさつ〕 会長就任あいさつ 渡邊 博昭

〔講義〕 甲状腺検査の話題 吉岡 幸

Secondstage ループスアンチコアグラントの歩み 恩田 宏夫

〔研究〕 脱脂処理を組み込んだ密閉式自動固定包埋装置による検体処理法の検討
林 真也

〔施設紹介〕 下越総合健康開発センター 井本 剛史

〔受賞者のことば〕

篠川至賞を受賞して 稲波 浩

篠川至賞を受賞して 高頭 秀吉

生涯教育新人賞を受賞して 渡邊 愛深

〔案内〕 第90回新潟県臨床検査学会案内

〔認定技師精度紹介〕 一般検査士認定試験を受検して 河野 良平

〔研修会参加報告〕

生物化学分析部門遺伝子・染色体分野研修会の参加報告 中村 岳史

形態検査部門病理検査分野研修会に参加して 坂下 千明

上越支部研修会に参加して 岡田はるな

下越支部研修会に参加して 鈴木 明

佐渡支部研修会に参加して 木村真樹子

新潟支部研修会に参加して 阿部 千帆

相談ができる臨床検査技師育成講習会に参加して 高橋 政江

〔アンケート結果〕

成26年度検査説明相談ができる臨床検査技師育成講習会アンケート結果

桑原喜久夫

〔ペンリレー〕 渡辺 智佳

〔検査技師として～私の奮闘記～〕

高澤 駿太

竹内 孝美

小熊 望

神林 泰浩

〔会報〕

平成26年度 第7回理事会議事録

平成27年度 第4月常任理事会議事録

26年度 監査報告書

平成26年度第1回通常総会からアンケート回答

新入会員紹介

会員消息

新臨技会日誌

〔行事予定〕

297号 平成27年10月1日

〔講義〕 Helicobacter pylori 感染の現状 - 感染診断・除菌治療と最新知見について -

阿部 雅仁

〔案内〕 第90回新潟県臨床検査学会

〔研究〕 第88回新潟県臨床検査学会抄録

〔おしらせ〕 平成28年度北日本支部医学検査学会（第5回）メインテーマ募集のお知らせ

〔公益活動参加報告〕 父の日企画 家族で守ろうパパの健康チェックに参加して

江口 香澄

〔研修会参加報告〕 輸血検査実技講習会に参加して 渡邊 桃子

生理検査基礎セミナーに参加して 深谷 幸子

第1回新臨技臨床一般部門研修会に参加し 齋藤 直子

第37回病理技術研究会に参加して 石塚 浩章

東日本大震災における「生活不活発病（エコノミークラス症候群）予防検診」に参加して

宮澤 晴美

〔施設紹介〕 魚沼基幹病院 小池 敦

〔ペンリレー〕 田辺 恵梨

〔検査技師として～私の奮闘記～〕 細谷 大

矢澤 景子

澤渡 哲也

〔会報〕

平成27年度 第1回理事会議事録

平成27年度 第2回理事会議事録

平成27年度7月常任理事会議事録

新入会員紹介

会員消息

新臨技会日誌

〔行事予定〕

298号 平成28年1月1日

〔あいさつ〕 年頭のご挨拶 渡辺 博昭

〔講義〕 検体検査装置における流れ学へご招待 新山 時弘

睡眠時無呼吸症の簡易検査の現状 吉川 京子

〔研修会参加報告〕 北日本支部遺伝子染色体部門研修会に参加して 吉沼 美幸

超音波検査セミナー2015に参加して 根本 一平

血液部門実技研修会に参加して 林田公美子

病理細胞診部門研修会に参加して 池田 友美

一般検査部門研修会実技研修会に参加して 皆川 萌美

下越支部研修会に参加して 松永 梨沙

新潟支部研修会に参加して 伊藤 慶子

中越支部フォーラムに参加して 松尾 洸
第90回新潟県臨床検査学会に参加して 森田 祐貴
第90回新潟県臨床検査学会に参加して 松田 佳代
第90回新潟県臨床検査学会に参加して 小田 浩大

〔公益活動参加報告〕 ピンクリボンホリデーに参加して 西脇笑美子

糖尿病を知るつどい〜に参加して 長谷川一稀
すこやかとしびまつりに参加して 寺尾 勇祐
新潟市民健康福祉まつりに参加して 三原 早貴

〔弔辞〕 黒崎和広さんを偲んで 横山 修市

〔施設紹介〕 あがの市民病院 岩崎 健志

〔ペンリレー〕 津川 志保

〔検査技師として〜私の奮闘記〜〕 西田 陽子

藤井 真也

高橋 秋菜

光野 駿紀

〔会報〕

平成27年度第3回理事会議事録

平成27年度10月常任理事会議事録

新入会員紹介

会員消息

技師会日誌

〔行事予定〕

2) 新臨技ニュース

池上 喜久夫

理事会議事要旨、組織活動、研修会案内、求人情報など速報性・実用性のある情報を掲載してきた。また掲載情報の正確性・即時性を考慮し、可能な範囲で早く各施設に届くように努めてきた。また、広く会員に読まれるようレイアウトを工夫した。発行は理事会終了後の月1回とした。

3) 新臨技ホームページ

近藤 善仁

新臨技ホームページは案内・各支部活動・各研究班活動の内容がリアルタイムに閲覧でき好評である。本年度は検査研究部門のページをリニューアルし、各部門（分野）ごとに詳細な情報を発信することが可能となった。また、会員専用ページを設け第90回県学会の抄録を web 抄録として公開し、精度管理事業の一部報告も web を利用して行った。

来年度に開催される第5回日臨技北日本支部学会の公式サイトを構築し公開した。

【主要行動報告】

1. 北里大学保健衛生専門学院入学式に吉原副会長が出席（4月8日）
2. 新潟医療技術専門学校入学式に桑原副会長が出席（4月9日）
3. 4月常任理事会（4月11日）
4. 日臨技災害対策委員会に坂西副会長出席（4月12日）
5. 東臨技代表者会議へ渡邊会長、吉原副会長出席（4月18日）
6. 日臨技 臨床化学教本編集部会 免疫教本編集部会に坂西副会長出席（4月18日）

7. 日臨技 呼吸器分野教本編集部に坂西副会長出席 (4月25日)
8. 第1回表彰委員会開催 (5月8日)
9. 第1回学術部会議開催 (5月9日)
10. 篠川至賞選考委会へ渡邊会長、吉原副会長、桑原副会長、小柳事務局長出席 (5月9日)
11. 第64回日本医学検査学会へ渡邊会長出席 (5月15~16日)
12. 技師会監査報告 (5月21日)
13. 日臨技総会 日臨技連盟総会に坂西副会長出席 (5月23日)
14. 第9回臨床セミナー並びに通常総会 (5月30日)
15. 第1回理事会 (5月30日)
16. 北日本支部幹事会へ渡邊会長、吉原理事、桑原理事、坂西理事、小柳理事、阿部理事出席 (6月6日)
17. 第2回理事会 6月13日
18. 新潟県細胞検査士会定例総会へ桑原副会長出席 (6月20日)
19. 新潟県健康づくり財団第11回定時評議会へ渡邊会長出席 (6月24日)
20. 会誌編集委員会開催 (6月24日)
21. 第1回精度管理委員会開催 (7月6日)
22. 日臨技連盟会議 (東京都) へ坂西副会長出席 (7月11日)
23. 7月常任理事会 (7月11日)
24. 新潟はっぴー乳ライフ実行委員会へ小柳事務局長出席 (7月14日)
25. 第1回精度管理協議会に坂西副会長、高口理事出席 (7月17日)
26. 県学会事前打ち合わせ会議開催 (8月8日)
27. 県学会会場打合せ (朱鷺メッセ) に佐藤理事、小柳事務局長出席 (8月19日)
28. 健康寿命延伸にかかる多職種協働推進委員会へ桑原副会長出席 (8月27日)
29. 検査と健康展の会場打合せ (イオン新潟南) に佐藤理事出席 (9月2日)
30. 第3回理事会 (9月6日)
31. 新潟はっぴー乳ライフ実行委員会へ佐藤理事出席 (9月8日)
32. 日臨技連盟常任執行委員会に坂西副会長出席 (9月11日)
33. 第91回新潟県臨床検査センター協議会へ坂西副会長出席 (9月12日)
34. 第2回編集員委員会開催 (9月17日)
35. 日臨技災害対策委員会に坂西副会長出席 (9月26日)
36. 第32回がん征圧新潟県大会へ桑原副会長出席 (10月2日)
37. 10月常任理事会 (10月3日)
38. 新潟県学会準備に小柳事務局長、佐藤理事出席 (10月8日)
39. 第90回新潟県臨床検査学会 (10月12日)
40. 平成27年度北日本支部内連絡会議へ渡邊会長出席 (10月17日)
41. 第4回北日本支部学会 (北海道) へ渡邊会長、桑原副会長、坂西副会長、池上事務局次長、山川理事、近藤理事視察 (10月17. 18日)
42. ピンクリボンホリデーに小柳事務局長、加藤理事、佐藤理事参加 (10月18日)
43. 第2回精度管理委員会 (10月22日)
44. 地域ニューリーダー育成研修会に寺島理事出席 (10月24. 25日)
45. 新潟県作業療法士会設立30周年式典へ渡邊会長出席 (10月25日)
46. 第3回精度管理委員会 (10月25日)
47. 検査と健康展の打合せに佐藤理事出席 (10月30日)

48. 平成27年度新潟県医師会設立記念大会へ渡邊会長出席（10月31日）
49. 第4回理事会（11月15日）
50. 第2回新潟栄養・食生活学会役員会に吉原副会長出席（11月18日）
51. 第4回精度管理委員会（11月20日）
52. 故黒崎和広技師の通夜式に吉原副会長、桑原副会長、坂西副会長、石田理事参列（11月22日）
53. 検査と健康展開催（11月28日）
54. 編集会議開催（12月17日）
55. 第5回精度管理委員会（12月19日）
56. 第5回理事会（12月19日）
57. 北日本学会についてコンベンション協会へ池上事務局次長打合せ（1月5日）
58. 検査説明相談ができる臨床検査技師育成講習会開催（1月09～10日）
59. 先駆的チーム医療実践講習会へ寺島理事参加（1月10日）
60. 関連団体へ新年挨拶回り（1月21日）
61. 日臨技臨時総会へ坂西副会長出席（1月23日）
62. 1月常任理事会（1月23日）
63. 日臨技出版WGに坂西副会長出席（1月23日）
64. 精度管理協議会に坂西副会長、高口理事出席（1月27日）
65. 日臨技災害対策検討委員会に坂西副会長出席（2月7日）
66. 第6回理事会（2月20日）
67. 日臨技北日本支部幹事に渡邊会長出席（2月26日）
68. 新潟支部総会に渡邊会長出席（2月27日）
69. 中越支部総会に吉原副会長出席（2月27日）
70. 新潟県健康づくり財団第12回臨時評議員会に渡邊会長出席（3月1日）
71. 下越支部総会に吉原副会長出席（3月5日）
72. 佐渡支部総会に桑原副会長出席（3月5日）
73. 新潟医療技術専門学校卒業式に桑原副会長出席（3月9日）
74. 新潟医療福祉大学卒業式に渡邊会長出席（3月10日）
75. 北里大学保健衛生専門学院卒業式に坂西副会長出席（3月16日）
76. 新潟大学医学部保健学科卒業式に渡邊会長出席（3月23日）
77. 3月常任理事会（3月26日）

平成27年度収支決算報告

平成27年度収支決算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

収入の部

大科目	中科目	小科目	予 算 額	決 算 額	差 異	摘 要
受取会費			8,245,000	8,545,500	△ 300,500	
	正会員会費		6,985,000	7,265,500	△ 280,500	1,321名
	賛助会員会費		1,260,000	1,280,000	△ 20,000	64社
事業収益			3,700,000	5,061,606	△ 1,361,606	
	参加費収入		1,500,000	2,169,000	△ 669,000	検査研究部門
	会誌広告収入		1,000,000	1,080,000	△ 80,000	会誌(14社)名簿(13社)
	助成金収入		1,200,000	1,812,606	△ 612,606	日臨技、県医師会
雑収益			805,000	689,233	115,767	
	預金利息収入		5,000	4,233	767	
	協賛金収入		800,000	685,000	115,000	第90回新潟県学会協賛金
経常収益計 A			12,750,000	14,296,339	△ 1,546,339	
前期繰越収支差額			0	1,317,068	△ 1,317,068	
収入合計 B			12,750,000	15,613,407	△ 2,863,407	

支出の部

大科目	中科目	小科目	予算額	決算額	差異	摘要
事業費			10,020,000	10,985,341	△ 965,341	
	検査学会研修費		4,620,000	5,236,124	△ 616,124	
		学会費	1,000,000	1,227,245	△ 227,245	第90回新潟県学会
		運営費	1,000,000	909,328	90,672	第9回セミナー、検査説明相談
		学術部活動費	2,500,000	2,991,969	△ 491,969	研究部門活動費
		学術雑費	120,000	107,582	12,418	源泉徴収税等
		負担金	0	0	0	
	臨床検査精度保証費		450,000	569,570	△ 119,570	新潟県精度管理事業等
	広報費		4,100,000	4,436,543	△ 336,543	
		会誌発行費	2,800,000	2,913,224	△ 113,224	会誌4号、名簿
		広報編集費	700,000	489,350	210,650	広報委員会・HP維持管理費
		組織公報費	400,000	1,033,969	△ 633,969	各支部公益事業負担
		災害対策費	200,000	0	200,000	
	総会費		250,000	241,214	8,786	
		準備費	150,000	81,519	68,481	登記費用等
		生涯教育表彰事業費	100,000	159,695	△ 59,695	賞状作成費等
	組織強化費	支部強化費	600,000	501,890	98,110	各支部助成金
管理費			5,480,000	5,042,932	437,068	
	事務費		2,650,000	2,511,152	138,848	
		備品費	200,000	0	200,000	
		消耗品費	100,000	78,449	21,551	文房具、封筒、コピー用紙
		印刷費	550,000	545,911	4,089	各種案内等
		通信費	500,000	734,721	△ 234,721	案内発送
		交通費	350,000	320,353	29,647	日臨技、北日本支部会議
		渉外対策費	300,000	194,990	105,010	関連団体
		給料手当	650,000	636,728	13,272	事務職員
	会議費	旅費	900,000	1,156,520	△ 256,520	理事会旅費
	事務所費		1,750,000	1,281,955	468,045	
		維持管理費	1,600,000	1,165,430	434,570	賃貸料、電気代
		電話費	120,000	109,286	10,714	光回線、プロバイダー
		事務所雑費	30,000	7,239	22,761	
	雑費		180,000	93,305	86,695	
		交際費	150,000	93,305	56,695	関連団体慶弔費
		雑費	30,000	0	30,000	
特定預金支出	篠川至賞引当金		1,500,000	864	1,499,136	預金利息
	仮払金		0	872,260	△ 872,260	北日本支部学会準備
予備費			650,000	0	650,000	
	当期支出合計	C	17,650,000	16,901,397	748,603	
	当期収支差額	A - C	△ 4,900,000	△ 2,605,058	△ 2,294,942	
	次期繰越収支差額	B - C	△ 4,900,000	△ 1,287,990	△ 3,612,010	

総合財産目録

平成28年3月31日現在

科 目	金	額
I, 資産の部		
1, 流動資産		
現金	741,558	
普通預金		
第四銀行臨港支店	2,639,608	
ゆうちょ銀行	8,261	
流動資産合計		3,389,427
2, 固定資産		
会館建設引当預金（公益目的資産）		
第四銀行臨港支店（定期）	10,000,000	
ゆうちょ銀行（定額5口）	5,268,000	
篠川至賞引当預金（公益目的資産）		
ゆうちょ銀行（定額3口）	6,101,000	
共済基金（公益目的資産）		
ゆうちょ銀行（定額3口）	1,724,000	
篠川至賞基金		
北越銀行県庁支店（定期）	5,001,707	
固定資産合計		28,094,707
資産合計		31,484,134
II, 負債の部		
1, 流動負債		0
2, 固定負債		0
負債合計		0
正味財産		31,484,134

損益計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

科 目	金	額
I, 増加の部		
1, 資産増加額		
篠川至賞引当預金（基金）	864	
当期収支差額		
資産増加額合計		864
2, 負債減少額		0
増加額合計		864
II, 減少の部		
1, 資産減少額		
当期収支差額	2,605,058	
公益目的支出額	(4,495,631)	
2, 負債増加額		0
減少額合計		2,605,058
当期正味財産増加額		△ 2,604,194
前期繰越正味財産額		34,088,328
期末正味財産合計額		31,484,134

1. 正味財産増減計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
受取会費	8,545,500
正会員会費	7,265,500
賛助会員会費	1,280,000
事業収益	3,249,000
参加費収入	2,169,000
会誌広告収入	1,080,000
受取補助金等	1,812,606
助成金収入	1,812,606
雑収益	689,233
預金利息収入	4,233
協賛金収入	685,000
経常収益計	14,296,339
(2) 経常費用	
事業費	10,985,341
学会費	1,227,245
運営費	909,328
学部活動費	2,991,969
学術雑費	107,582
負担金	0
臨床検査精度保証費	569,570
会誌発行費	2,913,224
広報編集費	489,350
組織公報費	1,033,969
災害対策費	0
準備費	81,519
生涯教育表彰事業費	159,695
組織強化費	501,890
管理費	5,915,192
備品費	0
消耗品費	78,449
印刷費	545,911
通信費	734,721
交通費	320,353
渉外対策費	194,990
給料手当	636,728
会議旅費	1,156,520
事務所維持管理費	1,165,430
電話費	109,286
事務所雑費	7,239

交際費	93,305
雑費	0
予備費	0
仮払金	872,260
経常費用計	16,900,533
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 2,604,194
基本財産評価損益等	0
特定資産評価損益等	0
投資有価証券評価損益等	0
評価損益等計	0
当期経常増減額	△ 2,604,194
2. 経常外増減の部	
当期経常外増減額	0
他会計振替額	0
当期一般正味財産増減額	△ 2,604,194
一般正味財産期首残高	27,770,417
一般正味財産期末残高	25,166,223
II 指定正味財産増減の部	
III 正味財産期末残高	25,166,223

2. 貸借対照表 平成28年3月31日現在

科 目	金 額	
I, 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金	3,451,310	
流動資産合計		3,451,310
2. 固定資産		
会館建設引当預金	20,269,707	
篠川至賞引当預金	6,101,000	
共済基金	1,724,000	
固定資産合計		28,094,707
資産合計		31,546,017
II, 負債の部		
1. 流動負債		0
2. 固定負債		0
負債合計		0
III, 正味財産の部		
正味財産		31,546,017
(うち当期正味財産増加額)		(△1,287,126)
負債及び正味財産合計		31,546,017

計算書類に対する注記

1 重要な会計方針

- ① 資産の評価基準及び評価方法について
 - ・ 棚卸資産は、最終仕入原価法による原価法。
 - ・ 投資有価証券は、異動平均法による原価法。
- ② 固定資産の減価償却について
 - ・ 有形固定資産の減価償却は定率法により行う。
- ③ 引当金の計上基準について
 - ・ 貸倒引当金、賞与引当金は、法人税法の規定に基づく繰入限度相当額を計上する。
 - ・ 退職給与引当金は、役員及び職員の退職金支給に備え、退職金期末要支給額を計上する。
- ④ 資金の範囲について
 - ・ 資金の範囲には、現金預金、未収金、未収会費、仮払金、未払金、仮受金を含めている。
 なお、前期末及び当期末残高は下記4のとおりである。

- 2 基本財産は所有していない。
- 3 有形固定資産は所有していない。
- 4 未収金等及び未払金等は発生していない。
- 5 担保に供している資産並びに支払を保証している債務はない。
- 6 表示の金額は、円単位で表示している。

【正味財産増減計算書内訳表】

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

科 目	実施事業等会計					その他会計				法人会計	内部取引消去	金額
	検査学会研修費	臨床検査精度保証費	広報費	共通	小計	総会費	その他	共通	小計			
I 部												
1. 経常増減の部												
(1) 経常収益												
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8,545,500	0	8,545,500
正会員会費					0				0	7,265,500		7,265,500
賛助会員会費					0				0	1,280,000		1,280,000
事業収益	2,169,000	0	1,080,000	0	3,249,000	0	0	0	0	0	0	3,249,000
参加費収入	2,169,000				2,169,000				0	0		2,169,000
会誌広告収入			1,080,000		1,080,000				0	0		1,080,000
受取補助金等	1,612,606	200,000	0	0	1,812,606	0	0	0	0	0	0	1,812,606
助成金収入	1,612,606	200,000			1,812,606				0	0		1,812,606
雑収益	685,000	0	0	0	685,000	0	0	0	0	4,233	0	689,233
預金利息収入					0				0	4,233		4,233
協賛金収入	685,000				685,000				0	0		685,000
経常収益計	4,466,606	200,000	1,080,000	0	5,746,606	0	0	0	0	8,549,733	0	14,296,339
(2) 経常費用												
事業費	5,236,124	569,570	4,436,543	0	10,242,237	241,214	501,890	0	743,104		0	10,985,341
学会費	1,227,245				1,227,245				0			1,227,245
運営費	909,328				909,328				0			909,328
学部活動費	2,991,969				2,991,969				0			2,991,969
学術雑費	107,582				107,582				0			107,582
負担金	0				0				0			0

臨床検査精度保証費		569,570			569,570					0			569,570
会誌発行費			2,913,224		2,913,224					0			2,913,224
広報編集費			489,350		489,350					0			489,350
組織公報費			1,033,969		1,033,969					0			1,033,969
災害対策費			0		0					0			0
準備費					0	81,519				81,519			81,519
生涯教育表彰事業費					0	159,695				159,695			159,695
組織強化費					0		501,890			501,890			501,890
管理費										5,915,192	0		5,915,192
備品費										0			0
消耗品費										78,449			78,449
印刷費										545,911			545,911
通信費										734,721			734,721
交通費										320,353			320,353
渉外対策費										194,990			194,990
給料手当										636,728			636,728
会議旅費										1,156,520			1,156,520
事務所維持管理費										1,165,430			1,165,430
電話費										109,286			109,286
事務所雑費										7,239			7,239
交際費										93,305			93,305
雑費										0			0
予備費										0			0
仮払金										872,260			872,260
経常費用計	5,236,124	569,570	4,436,543	0	10,242,237	241,214	501,890	0	743,104	5,915,192	0		16,900,533
評価損益等調整前 当期経常増減額	△ 769,518	△ 369,570	△ 3,356,543	0	△ 4,495,631	△ 241,214	△ 501,890	0	△ 743,104	2,634,541	0	△ 2,604,194	
基本財産評価損益等					0				0				0
特定資産評価損益等					0				0				0
投資有価証券評価損益等					0				0				0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 769,518	△ 369,570	△ 3,356,543	0	△ 4,495,631	△ 241,214	△ 501,890	0	△ 743,104	2,634,541	0	△ 2,604,194	
2. 経常外増減の部													
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額					0				0				0
当期一般正味財産増減額	△ 769,518	△ 369,570	△ 3,356,543	0	△ 4,495,631	△ 241,214	△ 501,890	0	△ 743,104	2,634,541	0	△ 2,604,194	
一般正味財産期首残高					0				0	27,770,417			27,770,417
一般正味財産期末残高	△ 769,518	△ 369,570	△ 3,356,543	0	△ 4,495,631	△ 241,214	△ 501,890	0	△ 743,104	30,404,958	0	25,166,223	
II 指定正味財産増減の部													
III 正味財産期末残高	△ 769,518	△ 369,570	△ 3,356,543	0	△ 4,495,631	△ 241,214	△ 501,890	0	△ 743,104	30,404,958	0	25,166,223	

【上越支部】

1) 秋季研修会

第105回上越支部研修会（生涯教育認定 専門20 参加会員数38名）

日時 平成27年10月3日（土） 会場 県立中央病院 講堂

- ・講演1「クレアチニン測定の課題とeGFRについて」 株式会社シノテスト 塚本 和範 先生
- 「ウイルス性肝炎と肝線維化について」 シスメックス株式会社 阿部 幸也 先生
- ・講演2「医療機器の安全と電気について」 日本光電北関東株式会社 秋村 裕彦 先生
- ・技師会報告「検体採取等に関する指定講習会参加報告」 糸魚川総合病院 竹内 孝美 技師
- 「上越病理技術研究会の立ち上げについて」 県立中央病院 林 真也 技師

2) 春季研修会

第106回上越支部研修会（生涯教育認定 専門20 参加会員数41名）

日時 平成28年2月27日（土） 会場 新潟県教職員互助会館 高陽荘

- ・講演1「結核菌の基礎から T-SPOT 検査まで」
オックスフォード・イムノテック株式会社 森沢 拓也 先生
- ・講演2「腎機能検査の基礎知識から新規尿中バイオマーカーL-FABP まで」
積水メディカル株式会社 安田 貴志 先生

3) 検体検査研究班（生涯教育認定 専門20 参加会員数31名）

日時 平成27年11月16日（火） 会場 新潟県立中央病院

- 演題・「ショックは大量出血だけが原因ではない！」 新潟県立中央病院 高橋 政江 技師
- ・「敗血症を考える～検査から臨床へ～」
シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社 大井 雅宏 先生

4) 形態検査研究班（生涯教育認定 専門20 参加会員数22名）

日時 平成27年10月28日（水） 会場 新潟労災病院会議室

- 演題 「自動血球分析装置による体液測定の有用性について」
シスメックス株式会社 北浦 芳之 先生

5) 生理検査研究班（生涯教育認定 専門20 参加会員数54名）

日時 平成27年1月18日（水） 会場 県立中央病院

- 演題 「CT 検査の基礎知識」 県立中央病院 高松 はるな 医師

6) 地域保健活動

① 第51回上越糖尿病内分泌研究会

日時 平成27年10月28日（水） 会場 上越医師会館

② 第37回上越循環器談話会

日時 平成26年11月24日（火） 会場 やすね

7) 通常総会（生涯教育認定 基礎30 参加会員数34名）

日時 平成27年2月27日（土） 会場 高陽荘

- 内容 平成27年度活動報告および会計報告
- 平成28年度事業計画（案）および予算（案）
- 会員からの意見書について報告

8) 支部役員会議

2015年（平成27年）

- 4月30日（木） 定例役員会
- 5月28日（木） 定例役員会（研究班班長含む）

- 6月25日(木) 定例役員会
- 7月29日(木) 定例役員会
- 8月26日(木) 定例役員会
- 9月24日(水) 定例役員会
- 10月22日(木) 定例役員会
- 11月26日(木) 定例役員会
- 12月22日(火) 定例役員会

2016年(平成28年)

- 1月28日(木) 定例役員会(研究班班長含む)
- 2月18日(火) 定例役員会

*計11回の役員会議を開催

【中越支部】

《学術》

- 1) 平成27年度中越支部講演会 [生涯教育認定 基礎20 参加48名]

平成27年2月28日(土) 14:00~16:45 立川総合病院 多目的施設 きぼう 3F 講堂

講演1 講演2 「相手との信頼関係を築くコミュニケーション」

講師 アポットジャパン株式会社 営業統括部

セールストレーニングマネージャー 山田 逸枝 先生

- 2) ふれあい研修会 [生涯教育認定 基礎20 参加19名]

平成27年11月21日(土) 13:00~17:00 立川総合病院 多目的施設 きぼう 3F 講堂

テーマ 「RCPC」

講師 立川総合病院 腎臓内科医長 大塚 忠司 先生

立川総合病院 腎臓内科 吉岡 友基 先生

《学術支援事業》

平成27年度は、長岡生理機能検査研究会より、2つの研修会に活用いただきました。ここ数年活用がなかった事業でしたので、来年以降も活用いただきたく思います。

事業① 長岡生理機能検査研究会

超音波検査ブラッシュアップセミナー 心エコー編 専門20 参加33名

平成27年10月31日(土) 13:30~17:00

事業② 長岡生理機能検査研究会

超音波検査ブラッシュアップセミナー 腹部エコー編 専門20 参加17名

平成27年11月14日(土) 13:30~17:00

《組織》

- 1) 平成27年度中越支部通常総会 [生涯教育 基礎30 参加38名]

平成27年2月28日(土) 16:45~17:30立川メディカルセンター多目的施設きぼう3F講堂

議長 三好 考史 技師(長岡中央総合病院)

議事 ①平成26年度事業・決算・監査報告

②平成27年度事業計画・予算案提案

以上の議案について審議され、原案通り承認された。

- 2) パパの健康チェック [生涯教育 基礎20 参加ボランティア技師13名]

平成27年6月21日(日) 11:00~15:30 リバーサイド千秋

主催：ヘルシープラン21実行委員会・長岡市福祉保健部健康課

会場来場者に血糖測定及びCO測定・・・160名

3) 中越支部フォーラム [生涯教育 基礎20 参加57名]

平成27年9月12日(土) 14:00~16:15 立川メディカルセンター多目的施設きぼう3F 講堂

内容:「輸血検査へようこそ ~製剤から検査まで~」

講演Ⅰ 輸血検査編

講師 新潟県立がんセンター病院 検査科 小林 健太 先生

講演Ⅱ 輸血製剤編

講師 新潟県赤十字血液センター 事業供給課 供給課長 植野 正秋 先生

4) "すこやかともしびまつり 2015" [生涯教育 基礎20 参加ボランティア技師30名]

平成27年9月19日(土)・20日(日) 両日 10:00~16:00 アオーレ長岡 一般来場者 16,700名

主催:長岡市

内容:肺年齢測定・・・900名

5) 糖尿病を知るつどい [生涯教育 基礎20 参加ボランティア技師13名]

平成27年10月3日(土) 12:00~15:30 長岡リリックホール

主催:長岡市医師会

来場者 289名

来場者の血糖値測定・・・143名

6) 世界糖尿病デーin長岡2015 [生涯教育 基礎 20 参加ボランティア技師 16名]

平成27年11月14日(土) 12:00~17:00 アオーレ長岡 ホワイエ

主催:長岡ブルーライトアップ委員会

来場者 150名

HbA1c測定者・・・80名

《役員会》

第1回理事会 平成27年4月17日(木) 18:30~ 立川総合病院会議室

議題:理事担当職務、担当病院、連絡網の確認

年間事業、役割決定・支部フォーラムについて

「父の日企画」について、中越支部施設長会議について他

第2回理事会 平成27年5月21日(木) 18:30~ 立川総合病院きぼう3F

議題:「父の日企画」について、ふれあい研修会について、

支部フォーラムについて、中越支部施設長会議について、他

第3回理事会 平成27年6月25日(木) 18:30~立川総合病院和室

議題:「父の日企画」について、支部フォーラムについて、

中越支部施設長会議について、他

第4回理事会 平成27年7月23日(木) 18:30~ 立川総合病院和室

議題:支部フォーラムについて、中越支部施設長会議について

すこやかともしびまつり2015について

糖尿病を知るつどいについて、他

第5回理事会 平成27年9月17日(木) 18:30~ 立川総合病院和室

議題:支部フォーラムについて、

すこやかともしびまつり2015について

糖尿病を知るつどいについて

- ふれあい研修会・支部研究会について、他
- 第6回理事会 平成27年10月29日(木) 18:30～ 立川総合病院和室
 議題：ふれあい研修会について、
 すこやかともしびまつり2015について、
 糖尿病を知るつどいについて、世界糖尿病デーについて、
 平成28年度中越支部講演会、通常総会について、他
- 第7回理事会 平成27年11月19日(木) 18:30～ 立川総合病院和室
 議題：ふれあい研修会について、平成28年度中越支部講演会、
 通常総会について、篠川至賞選出について、他
- 第8回理事会 平成28年1月16日(土) 15:00～ 立川総合病院講義室
 議題：平成27年中越支部総会、中越支部講演会について
 篠川賞選出について、他

【下越支部】

<研修会等>

(1) 第1回支部研修会

日時：平成27年7月18日(土) 14:00～16:30

場所：下越総合健康開発センター 2階 大講堂

内容：「今さら聞けない検査の基本2015」

- ① 生理検査部門 講師：労働者健康福祉機構 燕労災病院 諸橋 学 技師
- ② 血液検査部門 講師：新潟県立新発田病院 水野 祐子 技師
- ③ 生化学検査部門 講師：新潟県立津川病院 小野間 健介 技師

参加者：43名(会員36名、学生4名、非会員3名)

生涯教育認定 専門20点

(2) 第2回支部研修会

日時：平成27年12月12日(土) 14:00～16:30

場所：下越総合健康開発センター 2階 大講堂

内容：講演1「医療現場における外国人の対応」

講師：早川 正子 先生(医療通訳)

講演2「H.pyloriにおける感染診断法の現状と胃がんリスク診断“ABC分類”」

講師：阿部 雅仁 先生(栄研化学株式会社 マーケティング推進室)

参加者：25名(会員19名、学生2名、非会員4名)

生涯教育認定 基礎20点

(3) 第3回支部研修会および総会

日時：平成28年3月5日(土) 14:00～16:30

場所：下越総合健康開発センター 2階 大講堂

内容：「臨床検査技師に求められるチーム力推進と医療安全

～チーム STEPPS によるチームトレーニング～」

講師：樋口 敦子 先生(立川メディカルセンター 本部 看護師確保対策室)

参加者：25名(会員20名、非会員5名)

生涯教育認定 基礎20点

内容：「下越支部通常総会」

参加者：15名 生涯教育認定 基礎30点

<下越支部理事会>

今年度は、支部研修会打合せ等で 5回開催した。

第1回理事会 平成27年4月23日（木）16：00～下越総合健康開発センター会議室

- 1) 支部理事の役割分担について
- 2) 第1回下越支部研修会について
- 3) 県理事会の報告（井本前支部長より）

第2回理事会 平成27年6月18日（木）16：00～下越総合健康開発センター会議室

- 1) 県理事会の報告
- 2) 第1回下越支部研修会について
- 3) 第2回下越支部研修会について

第3回理事会 平成27年8月20日（木）16：00～下越総合健康開発センター会議室

- 1) 県理事会の報告
- 2) 第1回下越支部研修会のふりかえり
- 3) 第2回下越支部研修会について

第4回理事会 平成27年11月19日（木）16：00～下越総合健康開発センター会議室

- 1) 県理事会の報告
- 2) 第2回下越支部研修会について
- 3) H27年度総会、第3回支部研修会について

第5回理事会 平成28年1月28日（木）16：00～下越総合健康開発センター会議室

- 1) 県理事会の報告
- 2) 第2回下越支部研修会のふりかえり
- 3) H27年度総会、第3回支部研修会について

【佐渡支部】

<活動内容>

1) 糖尿病を知る集いに支部として協力（支部会員5名参加）

日時 平成27年6月14日（日）8：45～

内容 血糖測定、参加者とクイズ、体操等

2) 研修会（専門-20） 会員参加：25名

日時 平成27年7月25日（土）14：00～17：00（受付13：30～） 会場 相川ファミリーオ

内容 1. 講演「血液ガスの基礎から応用まで」

講師 ラジオメーター株式会社 三沢 泰一先生

座長 佐渡総合病院 中川友也

2. 講演「無顆粒球症について」

講師 アボットジャパン株式会社東日本営業部 高山陽介先生

座長 佐和田病院 石塚文枝

3. 講演「免疫検査の非特異的反応」

講師 アボットジャパン株式会社学術情報室 青木和雄先生

座長 佐和田病院 石塚文枝

3) 糖尿病を知る集いに支部として協力(支部会員4名参加)

日時 平成27年11月15日(土) 14:00~

内容 血糖測定、参加者とクイズ、体操等

4) 研修会(専門-20) 会員参加:26名

日時 平成27年12月19日(土) 14:00~16:30(受付13:30~) 会場 佐渡総合病院 講堂

内容 1. 講演「急性腎障害早期診断マーカーL-FABPのご紹介」

講師 積水メディカル(株)カスタマーサポートセンターセンター 市原文雄先生

座長 佐和田病院 石塚文枝

2. 一般演題

①自動分析装置用試薬-マイクロTP-AR(2)の基礎的検討

~洗浄液コンタミノンEの洗浄効果と多点検量線による測定について~

佐渡総合病院 林 春紀

②尿蛋白試薬マイクロTP測定域向上への試み

佐渡総合病院 林 春紀

③乳腺超音波スクリーニング検査におけるカラー・エラストの活用

佐渡検診センター 仲村 友絵

④血管エコー検査の目的と所見

佐渡総合病院 宮崎 勝吉

座長 佐渡総合病院 笠井恵美子

5) 支部総会

日時 平成28年3月5日 13:30~(受付13:00~) 会場 佐渡総合病院 講堂

内容 1. 学術講演(専門-20) 会員参加:25名

① 講演「いまさら聞けない尿試験紙検査」

講師 栄研化学株式会社 マーケティング推進室 鈴木 正隆先生

座長 佐渡総合病院 笠井恵美子

② 講演「東芝エコー 最近のトピックス」

講師 東芝メディカル株式会社 営業推進部超音波担当 佐藤 範明先生

座長 佐和田病院 石塚文枝

③ 講演「頸動脈・下肢血管エコーの基礎」

講師 東芝メディカル株式会社 アプリケーショングループ超音波担当

平川絵里香先生

座長 佐和田病院 石塚文枝

④ 講演「下肢血管エコーのハンズオン・ライブデモンストレーション」

講師 佐渡総合病院生理検査室 宮崎勝吉先生

座長 佐和田病院 石塚文枝

2. 平成27年度佐渡支部総会(基礎-30) 会員参加:21名

<佐渡支部役員会>

第1回 4/28(火) 18:00~ 佐渡総合病院

第2回 7/30(火) 18:00~ 佐渡総合病院

第3回 9/16(水) 18:00~ 佐渡総合病院

第4回 11/18(水) 18:00~ 佐渡総合病院

第5回 1/21(木) 18:00~ 佐渡総合病院

本年度は研修会打ち合わせ等で、計5回開催致しました。

【新潟支部】

1) 平成26年度第二回新潟支部研修会 2015/02/21

参加人数：49名（会員49）

- ① 検査説明・相談ができる臨床検査技師 桑原 喜久男（新潟県済生会三条病院）
- ② 検体採取等に関する法律改正 坂西 清（JA 新潟厚生連新潟医療センター）

2) 第37回新潟病理技術研究会 2015/07/04（新臨技病理研究班との併催）

参加人数：35名（会員30、県会員3、非会員1、学生1）

- ① 認定病理検査技師の認定試験を受験して 土田 尚子（信楽園病院）
- ② 北日本支部 病理部門研修会（福島）の報告 丹田智恵子（新潟大学脳研究所）
- ③ HE染色アンケート集計結果報告
大谷内 健二（新潟大学大学院医歯学総合研究科 細胞機能講座分子細胞病理学分野）
- ④ヘマトキシリンの検討《各施設のヘマトキシリンの作成、染色性について》
遠藤 浩之（済生会新潟第二病院）

- ⑤エオジン検討《エオジンの粉末の違いによる染色性》
大谷内健二（新潟大学大学院医歯学総合研究科 細胞機能講座分子細胞病理学分野）

- ⑥トラブルシューティングと染色サーベイ 長谷川 秀浩（JA 新潟厚生連新潟医療センター）
- ⑦病理医の組織診断の過程とHE染色岩渕 三哉（新潟大学保健学研究科保健学専攻）

3) 第38回新潟支部一般検査研究班研修会 2015/07/15

参加人数：20名（会員18、非会員2）

- ① スライドカンファレンス提示 白川 千恵子（新潟医療技術専門学校）
- ② 尿生化学項目の現状 遠藤 美香（和光純薬工業株）
- ③ スライドカンファレンス解答・解説 白川 千恵子（新潟医療技術専門学校）

4) 平成27年度第1回新潟支部研修会 2015/08/08

参加人数：24名（会員24）

- ①安全で適正な輸血の推進という役割について - 今日まで、そして明日から -
瀬下 敏（新潟県赤十字血液センター）
- ②臨床検査技師が関わったインシデント事例 - みんなで取り組むインシデント対策 -
小林 清子（新潟大学医歯学総合病院）

5) 第4回新潟支部臨床化学研修会 2015/09/05

参加人数：20名（会員18、非会員1、賛助1）

- ① 「イムノアッセイの原理とその進化」
～ケミルミの光を見てみましょう、そしてイムノアッセイを理解しましょう～
川崎 芳正（シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティックス株式会社）
- ② 症例から学ぶ内分泌負荷試験の解釈の仕方 長崎啓祐（新潟大学医歯学総合病院小児科）

6) 第125回新潟支部微生物研修会 2015/11/19

参加人数：31名（会員29、非会員2）

- ① 病原性大腸菌と感染症トピックス（人喰いバクテリア、ノロウイルス等）
中村将人（デンカ生研株式会社）

7) 第60回血液研究班研修会 2015/12/02

参加人数：25名（会員25）

- ① 顆粒球減少症と症例紹介 野崎あすか（アボットジャパン）
- ② 血球計数装置の歴史と血小板測定のパットホール 星野 勝信（アボットジャパン）

8) 第61回血液研究班研修会 2016/02/04

参加人数：16名（会員16）

HIT 抗体測定の意義とタイミング 阪田 敏幸（アイ・エル・ジャパン株式会社 血液凝固学術部）

<公益活動、その他>

1) 平成27年度新潟支部定期総会 2015/02/21

参加人数：34名（会員34）

2) きらきらフェスタ2015新潟市母子福祉連合会 2015/06/27

参加人数：3名（会員3）

血管年齢測定

3) 18回新潟市民健康福祉まつり健康ひろば 2015/10/18

参加人数：13名（会員13）

血管年齢測定

呼気 CO 測定

4) ABBOTTFAIR2015新潟（後援）2015/11/29

参加人数：53名（会員53）

<新潟支部総会及び幹事会>

1) 支部定期総会・第1回 新潟支部幹事会

平成27年2月21日（土）新潟大学医歯学総合病院 12階大会議室

2) 第2回 新潟支部幹事会

平成27年3月18日（水）18：30～ 新潟県臨床検査技師会事務所

3) 第3回 新潟支部幹事会

平成27年4月15日（水）18：30～ 新潟県臨床検査技師会事務所

4) 第4回 新潟支部幹事会

平成27年5月20日（水）18：30～ 新潟県臨床検査技師会事務所

5) 第5回 新潟支部幹事会

平成27年6月17日（水）18：30～ 新潟県臨床検査技師会事務所

6) 第6回 新潟支部幹事会

平成27年7月22日（水）18：30～ 新潟県臨床検査技師会事務所

7) 第7回 新潟支部幹事会

平成27年9月16日（水）18：30～ 新潟県臨床検査技師会事務所

8) 第8回 新潟支部幹事会

平成27年10月14日（水）18：30～ 新潟県臨床検査技師会事務所

9) 第9回 新潟支部幹事会

平成27年11月18日（水）18：30～ 新潟県臨床検査技師会事務所

10) 第10回 新潟支部幹事会

平成27年12月16日（水）18：30～ 新潟県臨床検査技師会事務所

11) 第11回 新潟支部幹事会

平成28年1月20日（水）18：30～ 新潟県臨床検査技師会事務所

12) 第12回 新潟支部幹事会

平成28年2月17日（水）18：30～ 新潟県臨床検査技師会事務所

平成28年度時業計画（案）

平成28年度も基本的には事業をそのまま引き継ぐが、日臨技北日本支部医学検査学会（第5回）の開催を最重要事業として、とどこおりなく会務を遂行したい。

新規または重要な事業を下記の通り計画する。

総務部

- ① 一般社団法人移行に伴っての問題点を検証する。
- ② 新しい規定および手順書の検証をする。

学術部

- ① 平成28年度に新潟で開催される日臨技北日本支部医学学会（第5回）の企画・運営を行う
- ② 日臨技の検査研究部門に合わせた体制を整える
- ③ 検査研究部門活動の助成金申請を20研修会申請する。

広報部

- ① ホームページのさらなる充実を図る。

1. 会務の執行体制

平成28年度は役員任期後期にあたり、円滑な業務運営を進めるうえで、各種規定・マニュアル等を基本に技師会業務の運営に努めたい。

また、活動の要である事務局機能は、各県技師会および日臨技との連絡・調整の場として、更なる会員サービスの向上に努めたい。組織強化の面からは、日臨技、北日本支部、新臨技支部、会員各位と協力しながら情報交換を図り、一人でも多くの会員から技師会の意義を感じ取ってもらえる環境・体制を整えたい。

2. 諸会議

1) 理事会・常任理事会

会議の招集、運営が非常に厳しい状況ではあるが、連携を密にするためにも、会議時間の短縮や運営方法を再検討しながら、総会に次ぐ議決機関として年6回の理事会と常任理事会を開催したい。

2) 三役会議・各部会議

諸会議の立案や各種業務内容の検討・調整を図るため、必要に応じて適宜開催する。

3) 各種委員会

本会活動の要としての役割を担っており、本年度も更に活発に運営して行きたい。

災害被災県としての経験を踏まえた災害支援メーリングリストは、災害時の支援活動や会員の安否確認に威力を発揮できると期待しており、多くの会員から賛同いただき登録者を増やしていきたい。

4) 日臨技北日本支部医学検査学会

今年度10月1日、2日の学会開催を控え、実行委員長を中心に企画・検討・準備を進めていく。

3. 組織対策

1) 臨床検査セミナー

毎年、第1回通常総会と同時開催している臨床検査セミナーは、技師会事業として定着している。

内容としては、市民公開講座による臨床検査技師のアピールや、臨床検査技師の卒後教育、また、日臨技を含めた組織活動的な内容を企画し、臨床検査技師の発展の場として、今後も積極的に開催していきたい。

2) 各支部との連携

支部持ち回りで開催している秋の県学会については、10月に日臨技北日本支部医学検査学会が新潟県担当で開催されることから、今年度は開催しないこととする。

3) 入会対策

益々厳しくなる医療情勢ではあるが、職能団体としての機能をさらに発揮するためには組織拡大と成熟が重要であり、各支部、各施設の理解と協力を得ながら新入会員を確保して行きたい。

また、臨床検査技師の地位向上および職域拡大を進めるためにも、臨床検査技師連盟への入会促進を積極的に働きかけていく。

4. 公益活動（地域保健医療活動）

一般社団法人として更なる県民の保健・医療・公衆衛生の向上と臨床検査技師の社会貢献による知名度向上を目的に、日臨技の事業および学会時の公開講演や健康展、関連職種団体との連携強化を進め、本年度も地域保健医療活動に積極的に参画して行く。

5. 求人情報の提供

求人情報の提供として日臨技への情報登録に留め、会員へは新臨技ニュースやホームページ等で求人情報を提供したい。

6. 表彰関係

1) 篠川至賞

平成28年度で第34回となる篠川至賞は、その制定主旨により、各支部からの推薦者の中より篠川至賞選考

委員会の審査を経て表彰されるものであり、会員の励みにもなっている。検査研究部門からも情報協力いただきながら各支部からの積極的な推薦をお願いしたい。

2) 会長表彰

特別功労表彰、永年会員功労表彰は、新臨技表彰規定に基づき、それぞれの基準に該当する者について表彰委員会の審査を経て、毎年の通常総会において表彰する。

3) 生涯教育奨励賞

多くの会員の生涯教育および学術活動への参画と活性化を求め、分野に関わらず最多得点者の上位3名を推薦する。

4) 生涯教育新人賞

臨床検査教育の場としての研修会等への参加を通じ、更なる技師会活動への参画に期待し、分野に関わらず20代会員の最多得点修了者を表彰する。

学術部

副会長 桑原 喜久男

平成28年度活動計画（案）

平成28年度日臨技北日本支部医学検査学会第5回開催に向けて準備をつつがなく進め、新潟県もちろん、他県から多くの会員を迎えたい。検査研究部門は北日本支部学会開催に向け、教育セミナー等の企画、運営を担当いただき。精度管理は新臨技HPを活用しサーベイ結果の閲覧可能なように対応する。検査研究部門研修会、各支部研修会を通じて、日臨技の生涯教育推進事業は20研修会の申請を目指して活動を行う。

1. 学会

平成28年度日臨技北日本支部医学検査学会第5回では一般演題 150題、参加者数1,000名を目標に準備を進める。本学会より、臨床検査技師を目指す学生にもご参加いただき、養成校とコラボレーションした企画を開催し、日臨技を身近に感じていただき、卒業後には日臨技へ入会するように働きかける。北日本支部学会開催に伴い、第91回新潟県臨床検査学会は平成29年度に開催する事とする。

2. 検査研究部門

池亀 央嗣

検査研究部門が行う各種研修会は、技師会において最も重要な活動のひとつである。医療制度や各分野における検査技術は大きく変化し、新たな知識や技術を臨床検査技師が習得していくことは極めて重要である。これらの知識や技術を学ぶ各種研修会の果たす役割は大きい。

検査研究部門は、前年度に再編され、生物化学分析部門、臨床一般部門、臨床血液部門、臨床微生物部門、輸血細胞治療部門、病理細胞部門、染色体・遺伝子部門、臨床生理部門（神経生理分野、呼吸・循環生理分野、超音波分野）、臨床検査総合部門の9部門3分野となった。今年度は、新体制1期目の2年目となる。

各部門の活動費は12万円、各分野は8万円とし、当事者負担の原則の下で過剰な負担が及ばない程度の参加費で運営経費を補完する。非会員の研修会参加費は、会員の3倍とし、会員利益と活動費補完をはかる。また、参加は会員優先とし特に人気の高い実習形式研修会では会員に不利益が生じないものとする。

研修会の内容は、若手技師や認定技師等の資格取得教育、最新情報などを考慮して、様々な状況にある会員に有用な情報をバランスよく発信できるような体制を整備する。

技術や知識が複数の分野に係る内容に関しては、複数部門での合同研修会や相互補完研修会を企画する。各研究部門と協力し、系統的な人材育成や生涯教育を行い、魅力ある学術活動を目指したい。研修会の形式は、講演に加えて、実習形式による研修会を推進する。また、日臨技や支部での研修会を伝達する形式での研修会

も奨励する。

研究部門や支部との連絡を密に行い、会員が他分野など多くの研修会に参加し、幅広い知識や技術を習得できるように、研修会開催日の重複を避け、開催地の地域格差を軽減する。

若手技師に対する学会発表や論文執筆などの技術的サポート体制を整備し、県学会や支部学会、全国学会での学会発表、医学検査をはじめとする学術雑誌への論文投稿を推進したい。今年度は、新潟市で第5回北日本支部医学検査学会が開催される。多くの会員の参加と発表を後押しし、活発な学術活動を展開していきたい。

3. 精度管理事業

坂西 清

本事業は新潟県医師会が新潟県から委託を受け、新潟県臨床検査精度管理協議会を設置して推進している事業である。本会としては、会員の技術向上に重要な事業であるという位置づけで本年度も積極的に協力していく。

今年は、昨年、実施した一般検査の尿沈渣フォトサーベイを引き続き実施していきたい。昨年、行ったサーベイで明らかになった問題の選出や評価の方法を改めて見直していきたい。

本年度も臨床化学、微生物、血球計算、一般フォトサーベイをさらに充実させ実施を予定している。平成19年度より日臨技データ標準化事業がスタートし、それを踏まえ実施項目を増やし、標準物質が入手可能な項目については随時評価を行ってきたが、本年度もそれらに努めたい。更に日臨技と密に連携をとり、データ報告から施設別報告までスムーズにいくように、システムの改善に努めていきたい。

日臨技の「臨床検査室精度保証認証制度」についても今年度は多くの施設が申請を行っていただくように啓発を進めていきたい。

4. 生涯教育

近藤 善仁

生涯教育研修制度は、臨床検査技師の知識や技術水準の維持・向上を目的とし、会員の自発的な学習を組織的に援助する制度である。会員は定められた履修期間・カリキュラムを基に履修点数を取得する。昨年度に引き続き、新システムのJAMTISでの運用となるが、県担当理事との連携を密にし、円滑な事業の推進に努めていく。また、ボランティア活動や臨床検査の普及のための啓発活動などに対して生涯教育行事登録を行い、活動を支援していく。

広報部

副会長 坂西 清

今年度も新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページの3本柱での運営を通して全会員へ向けたレスポンスの良い情報を例年通り安定提供したい。また今年度は、北日本支部学会が新潟で開催されることから、北日本支部学会ホームページとの連携も図っていきたい。また、毎年盛んに開催されている公益活動についてもホームページ上から、ボランティア募集から実施報告までの流れを出来るようなシステムを検討していきたい。

県理事、各支部理事および会員全員で情報の共有化を尚一層強化するためにも、新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページを充実させ、会誌やホームページの充実に熱意を持って取り組んでいきたい。

1) 新臨技会誌

齋藤 功英

会誌発行は299号から302号までの年4回季刊発行を予定する。〔講義・研究〕は多分野に渡り基礎的内容から技術革新に取り組んだ内容を掲載していきたい。〔研修会報告〕は参加会員の協力により引き続き掲載し、情報提供や新人会員の研鑽の頁としたい。〔ペンリレー〕〔新入会員紹介〕〔検査技師として～私の思い出～〕などの掲載で会員相互の親睦をはかり、誰もが参加できる企画を増やしていきたい。〔公益活動報告〕を掲載することにより、多くの会員に活動を知っていただき、ボランティア参加への啓蒙ツールとして掲載

していきたい。

2) 新臨技ニュース

池上 喜久夫

理事会議事録、組織活動、研修会案内、求人情報など速報性・実用性のある内容を掲載していきたい。また、読みやすいレイアウトになるように心がけるとともに、今後も広く会員に読まれるよう工夫していきたい。発行は月1回とし、理事会終了後、速やかに発行できるよう努めたい。

3) 新臨技ホームページ

近藤 善仁

新臨技ホームページは、案内・各支部活動・研究班活動の内容がリアルタイムに閲覧できることより、世代を問わず多くの会員から好評を得ている。引続き事務局との連絡を密にして、県内の会員に情報提供できるよう努めたい。また、本年度開催される第5回日臨技北日本支部学会の公式サイトも活用し相互の充実を図る。また、当技師会は、大規模災害時での施設および会員安否確認のため災害時緊急連絡システム（メーリングリスト）を全国に先駆けて構築している。インターネット・インフラの強みが先の大震災で証明され、災害被災県である我が県が、災害支援事業でリーダーシップを発揮し全国を牽引していくためにも、一人でも多くの新臨技会員の登録をお願いしたい。（詳細は県技師会ホームページ参照）

平成28年度収支予算（案）

予算編集に当たって

今回の予算編集は事業収益における助成金収入が減少することや公益目的支出を見込んだ編成を行い、平成28年度の予算編成を行った。昨今の経済状況の低迷により昨年同様、企業合併などによる賛助会員および広告数の減少ならびに、団塊の世代の退職も重なり会員数の減少も懸念されるが、今後も会員数の維持、増加に努めたい。

以下に、予算編成の要点を示し、平成28年度予算の提案としたい。

収入について

1. 受取会費収入：正会員は昨年よりやや増加傾向の1,300名とし、賛助会員は64口とした。
2. 事業収益：会誌広告収入は会員名簿作成がないので減額とした。
3. 助成金収入：前年度と同額とした。
4. 雑収入：県学会を実施しないため協力金は計上しない。

支出について

1. 事業費：学会費は県学会を実施しないため計上しない。
広報費の会誌発行費は会員名簿作成がないため減額。組織広報費は活発に公益事情を実施しているため増額とした。
2. 管理費：通信費は個人会員も増えているため増額とした。
会議費旅費は北日本支部学会の準備もあり、増額とした。
3. 特定預金支出：共済基金を行う。

平成28年度収支予算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

収入の部

大科目	中科目	小科目	平成28年度予算	平成27年度予算	差異	摘要
受取会費			8,430,000	8,245,000	185,000	
		正会員会費	7,150,000	6,985,000	165,000	1,300名
		賛助会員会費	1,280,000	1,260,000	20,000	64社
事業収益			3,300,000	3,700,000	△ 400,000	
		参加費収入	1,500,000	1,500,000	0	検査研究部門
		会誌広告収入	600,000	1,000,000	△ 400,000	会誌広告料
		助成金収入	1,200,000	1,200,000	0	日臨技、県医師会
雑収益			5,000	805,000	△ 800,000	
		預金利息収入	5,000	5,000	0	
		協賛金収入	0	800,000	△ 800,000	協力金
	経常収益計	A	11,735,000	12,750,000	△ 1,015,000	
	前期繰越収支差額		0	0	0	
	収入合計	B	11,735,000	12,750,000	△ 1,015,000	

支出の部

大科目	中科目	小科目	平成28年度予算	平成27年度予算	差異	摘要
事業費			8,520,000	10,020,000	△ 1,500,000	
	検査学会研修費		3,620,000	4,620,000	△ 1,000,000	
		学会費	0	1,000,000	△ 1,000,000	
		運営費	1,000,000	1,000,000	0	セミナー開催費
		学術部活動費	2,500,000	2,500,000	0	研究部門活動費
		学術雑費	120,000	120,000	0	源泉徴収税等
		負担金	0	0	0	
	臨床検査精度保証費		450,000	450,000	0	新潟県精度管理事業等
	広報費		3,600,000	4,100,000	△ 500,000	
		会誌発行費	2,000,000	2,800,000	△ 800,000	会誌4号
		広報編集費	700,000	700,000	0	広報委員会・HP維持管理費
		組織公報費	700,000	400,000	300,000	各支部公益事業負担
		災害対策費	200,000	200,000	0	
	総会費		250,000	250,000	0	
		準備費	150,000	150,000	0	会場費用等
		生涯教育表彰事業費	100,000	100,000	0	賞状作成費等
	組織強化費	支部強化費	600,000	600,000	0	各支部助成金
管理費			5,780,000	5,480,000	300,000	
	事務費		2,850,000	2,650,000	200,000	
		備品費	200,000	200,000	0	パソコンソフト備品等
		消耗品費	100,000	100,000	0	文房具、封筒
		印刷費	550,000	550,000	0	各種案内
		通信費	700,000	500,000	200,000	案内発送
		交通費	350,000	350,000	0	日臨技、東北会議
		渉外対策費	300,000	300,000	0	関連団体、支部対策
		給料手当	650,000	650,000	0	事務職員
	会議費	旅費	1,000,000	900,000	100,000	理事会旅費
	事務所費		1,750,000	1,750,000	0	
		維持管理費	1,600,000	1,600,000	0	賃貸料、電気代
		電話費	120,000	120,000	0	
		事務所雑費	30,000	30,000	0	
	雑費		180,000	180,000	0	
		交際費	150,000	150,000	0	関連団体慶弔費
		雑費	30,000	30,000	0	
特定預金支出	篠川至賞引当金		1,000	1,500,000	△ 1,499,000	預金利息
共済基金			1,724,000	0	1,724,000	
予備費			610,000	650,000	△ 40,000	
	当期支出合計	C	16,635,000	17,650,000	△ 1,015,000	
	当期収支差額	A - C	△ 4,900,000	△ 4,900,000	0	
	次期繰越収支差額	B - C	△ 4,900,000	△ 4,900,000	0	

注1：短期借入金限度額1,000,000円

注2：債務負担額はない

注3：差額は公益目的財産より充当する